

健診で分かる肝臓がんのかかりやすさ

—FIB-4を用いた肝臓がん高危険者の早期発見事業へのご参加のおすすめ—

肝臓がんは日本人のがん死亡原因の第5位です。

肝臓がんの原因は、30年前ではC型とB型肝炎ウイルスが90%を占めていましたが、抗ウイルス剤の進歩により、ウイルス性肝臓がんは年々減少しました。

ところが、最近ではウイルス以外による肝臓がんが増えています。直近3年間をみると、鳥取県の肝臓がんの原因は、ウイルス以外によるものが60%を占めています。

では、このウイルス以外による肝臓がんの原因は何でしょうか。答えは、脂肪肝とアルコールが半々の割合で原因となっています。また、生活習慣病、つまり肥満・糖尿病・高脂血症・高血圧・脂肪肝などを持つ患者さんから出やすいことが分かっています。しかも、これらの患者さんは肝臓病として病院に通院していないため、肝臓がんが発見されたときには手遅れのことが多く、治療も困難です。

そこで、鳥取県肝臓がん対策専門委員会では、非ウイルス性肝臓がんの高危険者（ウイルス以外の原因で起こる肝臓がんにかかるリスクが高いと思われる方）を見つけ、その人たちに定期的な健診を受けてもらう事業を開始しました。



【高危険者を見つける方法】

「FIB-4」という指標を使用します。「FIB-4」とは、肝臓の線維化を予測する指標のことです。健診の血液検査で測定される肝臓検査のAST・ALTと、医療機関で測定する血小板から計算できます。FIB-4が2.67以上では、2.67以下の方より肝臓がんになる可能性が6倍から11倍高いことが分かっています。



【事業の流れ】

- ①まずは住民検診(特定健康診査、後期高齢者健康診査)を受けていただきます。
- ②精密検査が必要となった患者さんにFIB-4を測定することをおすすめする通知が届きますので、かかりつけ医にお渡しください。
- ③後日、結果を役場から報告します。



FIB-4が2.67以上であった高危険者の方は、医療機関で精密検査(超音波検査、腫瘍マーカー)と年1回以上の定期検査を受けることが大切です。

【定期検査の重要性】

高危険者の方では、年に約1%、つまり10年で10%、20年で20%の患者さんに肝臓がんが発症します。FIB-4値が高いほど肝臓がんになる可能性は高くなります。

毎年の定期検査は特に重要です。定期検査は血液検査と超音波検査だけですので、決して苦しい検査ではありません。日頃かかりつけ医に診てもらっていても、腹部超音波検査をしていなければ肝臓がんは見つかりません。必ず定期検査を受けてください。

肝臓がんは早期に発見することによって10年、20年と長生きができる時代になりました。また、低危険者(FIB-4インデックス1.3以下)は肝臓がんになるリスクは極めて少ないことも明らかとなっています。簡単な検査ですのでぜひ一度FIB-4の測定を受けてください。

【日南町住民検診(集団検診)のご案内】

町では住民検診のご予約を受け付けています。検診日の3週間前までに、電話・インターネット・申込用紙の提出による予約のいずれかの方法でお申し込みください。

【問合せ先】 役場住民課 TEL: 82-1112 役場福祉保健課 TEL: 82-0374

